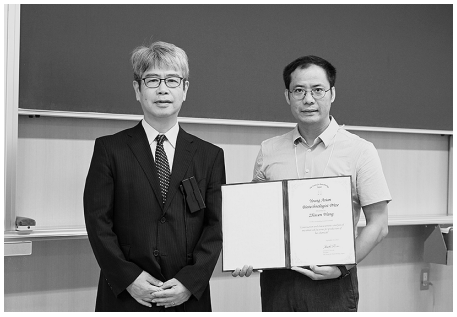
本部だより

国際交流活動2025年

（国際展開担当理事）中野　秀雄

2025年1月より12月までに行われた国際交流活動について報告する．

■生物工学アジア若手賞　本年度は22回目となり，中国のZhiwen Wang博士（寧夏大学）に授与された．受賞対象となった研究題目は，「Construction and characteristics analysis of microbial cell factories for production of bio-chemicals」で，受賞講演は大会2日目の午後に行われた．Zhiwen Wang博士は，山東農業大学で，学士，修士を修了後に，天津大学にて薬学工学（微生物学）を専攻，2011年に博士学位を取得した．その後天津大学化学工学技術学院生物工学科助教，准教授を経て，2023年から寧夏大学生命科学学院教授を務めている．これまでの主たる研究業績としては，CRISPRベースのゲノム編集システム開発，合成プロモーターライブラリの構築，リボスイッチの操作，およびバイオエタノール生産における最適化などが挙げられる．これまでに，Journal of Bioscience and Bioengineeringを含む，57報の査読付き論文を報告するなど，顕著な業績を挙げている．同氏の今後の研究における益々のご発展と当学会との連携を期待したい．



Zhiwen Wang教授

■生物工学アジア若手研究奨励賞（DaSilva Award）　第14回目の本年度は中国のTianmin Wang博士（上海科技大学）とインドネシアのDiah Anggraini Wulandari博士（National Research and Innovation Agency: BRIN）に授与された．受賞対象となった研究題目は，それぞれ「Development of novel antimicrobial peptides via the combination of high-throughput activity profiling and artificial intelligence」と「Advanced therapeutic protein production system using genetically modified green microalgae」であった．Tianmin Wang博士は，北京大学卒業後，清華大学と東京工業大学の共同交換プログラムを通じて生物情報学の修士（2015年），清華大学化学工学科で博士号を取得した（2018年）．その後清華大学医学部生命科学センターで博士研究員を務めた後，2023年5月より上海科技大学においてテニュアトラック助教として務めている．これまで主に細菌の抗生物質耐性に関連する課題を解決するための，革新的なハイスループット技術の開発に焦点を当てた研究を行っている．

Diah Anggraini Wulandari博士

Diah Anggraini Wulandari博士は，IPB大学（インドネシア，ボゴール）にて，水産海洋科学分野で学士と修士号を取得した（2016年）．その後インドネシアの国立研究機関であるResearch Centre for Oceanography（2018～2020年），さらにBRINにおいて研究員として採用された後（2021年～現在），九州大学博士課程に入学し，マイクロ流体技術と，酸化還元応答性ハイドロゲルを組み合わせた抗体生産細胞選択技術を開発し，博士（工学）の学位を取得した（2024年）．なおJBB誌に2報の原著論文を第一著者として発表している．その後BRINの身分は保持したまま九州大学で博士研究員を務めた後，現在はBRINで自ら開発したハイドロゲル技術を生かし，受賞課題に関する研究活動を継続している．

両氏の今後の研究における益々のご発展とJBB誌への貢献を期待したい．

■Korean Society for Biotechnology and Bioengineering（KSBB），Biotechnology and Biochemical Engineering Society of Taiwan（BEST）との人的交流　2025年4月2日（水）～4日（金）に大田コンベンションセンターで開催されたKSBB春季大会では，2024年度学会賞受賞者である福﨑英一郎先生（生物工学賞・阪大）と石井純先生（生物工学奨励賞（照井賞）・神戸大），また，9月23日（火）～27日（土）にグランドハイアット仁川で開催された

KSBB-AFOB Conference 2025では清水浩会長（阪大），田中祐圭先生（2024年度生物工学奨励賞（斎藤賞）・科学大），中山俊一先生（2024年度生物工学奨励賞（江田賞）・東農大），および根來宏明博士（2020年度生物工学奨励賞（江田賞）・月桂冠）が招待され講演を行った．

6月26日（木）～28日（土）に国立高雄科技大学（高雄）で開催されたThe 30th BEST Conference & International Symposium on Biotechnology and Bioengineeringには，青柳秀紀副会長（筑波大），中島田豊先生（2024年度生物工学功績賞・広島大）と中島一紀先生（2022年度生物工学奨励賞（照井賞）・北大）が参加し，招待講演を行った．

第77回日本生物工学会大会2日目のKSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム，「第一部：Point of Care Testingが支える安全・安心な日常生活（A Safe and Peaceful Daily Life Supported by Point of Care Testing）」および「第二部：AIと情報科学が切り拓く生物工学の未来（Shaping the Future of Bioengineering with AI and Information Science）」では，KSBBから6題，BESTから2題の招待講演が行われた．KSBBからの招待講演者は，Prof. Dong-Myung Kim（KSBB会長・Chungnam National University），Prof. Jong Wook Hong（Hanyang University），Assoc. Prof. Ki Soo Park（Konkuk University），Assoc. Prof. Han Min Woo（Sungkyunkwan University），Assist. Prof. Hyun Gyu Lim（Inha University），Prof. Shin Sik Choi（Myongji University）で，BESTからの招待講演者は，Assist. Prof. Yuan-Pang Hsieh（National Taiwan University of Science and Technology）とAssist. Prof. Kuan Shiong Khoo（Yuan Ze University）であった．

■KSBBとBESTとの交流会議　2025年10月17日（金）にKSBBの次期執行部と，また，10月21日（火）にはBESTの現執行部との交流会議をオンラインで開いた．本会からは，会長，副会長，庶務会計理事および国際展開委員が出席した．交流会議では第78回日本生物工学会大会（2026）にKSBBより5名，BESTより2名を招待し，KSBB，BEST，SBJの3学会合同シンポジウムを開催することに関して同意を得た．また本会からは，来年もKSBBに5名，BESTに2名の招待講演者を派遣することが決まった．

KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム
第一部：講演者および参加者

KSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム
第二部：講演者および参加者

TSBとの交流会議

KSBB，BEST，TSBからの招待講演者の歓迎会

■Thai Society for Biotechnology（TSB）との交流　2023年5月に締結したMOUに基づき，第77回日本生物工学会大会（2025）には，TSBのAssoc. Prof. Prakit Sukyai（Kasetsart University）とAssoc. Prof. Rujikan Nasanit（Silpakorn University）をお招きし講演を行っていただいた．大会2日目には交流会議を行い，2026年度の交流活動について意見交換が行われた．

筆者は，2025年9月3日（水）～4日（木）に，Bangkok International Trade & Exhibition Centre（BITEC）で開催されたThe 9th Biotechnology International Congress（BIC 2025）に参加し講演を行った．

2025年10月29日（水）～31日（金）にMandarin Hotel（バンコク）で開催されたThe 37th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference（TSB2025）には，清水浩会長と本田孝祐教授（庶務会計理事・阪大）が参加し，招待講演を行った．